

令和6年 年度始めご挨拶

戸沼岩崎建設株式会社 代表取締役社長 戸沼 淳



皆さんのおかげで、令和5年度も無事に終わることが出来ました。あらためて感謝申し上げます。この6月には創業90周年の祝賀会も予定しておりますので、皆さんとこれまでの苦労と、また、新しい未来をお祝いできればと思っています。

今年は能登半島地震、羽田空港衝突事故と波乱の幕開けとなりました。幹線道路の脆弱さや耐震化の遅れ、航空機に関しては過密ダイヤなどが問題として挙げられていますが、経済面、運用面が障害となって必要な対策が進んでいなかったのも大きな災害に繋がった要因の一つでもあると考えております。

建設業における災害防止にもいえますが、様々な想定、対策、準備をしても、実際に起きている事実、現象に対して、バイアスを掛けて見てしまうことで、リスクを正確に見積もらず「大したことはない」「大丈夫」といった自分にとって都合いいように情報を処理してしまうことがあります。災害心理学でも使われる「正常化の偏見」といわれる心理です。この心理に囚われないためには、ISOの外部審査や内部監査、安全パトロールなど、当事者とは違う立場の意見を聞いて、危険や不具合に正面から向き合う必要があります。リスクをしっかりと認め「正常化の偏見」に囚われない行動、考え方を持つようお願いいたします。

建設業における災害防止にもいえますが、様々な想定、対策、準備をしても、実際に起きている事実、現象に対して、バイアスを掛けて見てしまうことで、リスクを正確に見積もらず「大したことはない」「大丈夫」といった自分にとって都合いいように情報を処理してしまうことがあります。災害心理学でも使われる「正常化の偏見」といわれる心理です。この心理に囚われないためには、ISOの外部審査や内部監査、安全パトロールなど、当事者とは違う立場の意見を聞いて、危険や不具合に正面から向き合う必要があります。リスクをしっかりと認め「正常化の偏見」に囚われない行動、考え方を持つようお願いいたします。

国内の産業界では「2024年度問題」といわれる残業規制の問題、経済産業省が「日本企業においてDXが推進されず老朽化したシステムを使い続けることで、2025年を目途に経済的な損失が発生する」と発表した「2025年の壁」といった大きな節目の時期に直面しております。いずれも「人口減少」「担い手不足」の問題と深く関連しており、建設業界に限らず、社会全体の問題として取り組みが求められております。管内の公共工事の状況については、予算は例年並みとなっておりますが、開発局では大沼トンネルはじめ大型工事に予算を取られており、林野庁では林道の予算が半分になっております。資材、人件費が高騰する中、工事価格は上がっていますが、工事量としては減少しており、管内では受注競争が激化すると予想しております。よりシビアな工程、原価管理が求められますが、他者に転嫁するのではなく、知恵を絞って顧客の要求に応えるようお願いいたします。

当社につきましては、一昨年の大きな事故の経験を



安全と衛生

戸沼岩崎建設株式会社 発行

令和6年 4月12日



陽春号

<http://www.tonuma.com/>

第263号



踏まえ、様々な災害防止に努めてまいりました。おかげさまで大きな災害がなく、休業災害ゼロで終わることが出来ました。安全管理にゴールはありません。作業環境、自分を含めた従事する労働者の体力なども考慮した作業計画等、その現場、場面ごとに即した管理が必要となります。思い込みや慣例に囚われることなく「三現主義」の原則に基づいた柔軟な思考で来年度も災害のない1年になるようお願いします。



先の読めない時代が来ております。「誠実と努力」を胸に、しっかり地に足を付け、社員一丸となって「創業100周年」に向けて頑張ってみましょう。今年度もよろしく願いいたします。(令和6年4月1日朝礼 社長挨拶から)

建設工事着工期労働災害防止運動 4/1~6/30

建設工事着工期労働災害防止運動の目的は、建設工事現場が動き出す着工期に、安全衛生管理体制の再確認や安全衛生教育を実施し、事業場全体に安全意識を定着させることです。運動のスローガンは「『着工期』こそ、安全対策の『質』を決める時期」です。

さて、北海道の建設業における令和5年の労働災害発生状況を見ると、死亡者数は6人と前年同期に比べ17人減少し、死傷者数についても870人(新型コロナウイルスによるものを含む)と前年同期に比べ95人減少しています。死亡災害においては「墜落、転落」が3人と最も多く、死亡者数の半数を占めています。また、死傷災害においても「墜落、転落」が31.5%と依然として3割以上を占めています。

＝安全パトロール等の安全活動時における確認事項＝

1. 墜落・転落災害防止対策
2. 重機災害防止対策
3. 崩壊・倒壊災害防止対策
4. 交通労働災害防止対策
5. 「エイジフレンドリーガイドライン」に基づく職場環境の改善の取組
6. 転倒災害防止対策の取組
7. 外国人労働者への母国語による安全教育の実施



ヒヤリハット

令和5年度は休業災害ゼロで終わることが出来ました。

当社では土木と建築の作業現場の「ヒヤッとした」「ハッとした」という体験をその都度報告書として提出してもらっています。令和5年度は78件の報告書が提出されました。

ヒヤリハットの要因のほとんどは「足元を確認しなかった」「気がゆるんでいた」等、本人に問題があったケースでした。

「作業内容」をキーワードに分析すると、バックホーなどの重機の稼働時に「作業員と接触しそうになった」「ダンプや他の重機に接触しそうになった」等が11件ありました。

ヒヤリハットの内容では「転倒しそうになった」が23件と最も多く、平場作業・歩行移動や資機材積込運搬、足場組立・解体の際に多く発生していました。

また、自動車での作業現場への出退勤時や業務中の移動の際「鹿と接触しそになった」が6件ありました。



地域貢献 戸切地陣屋跡周辺清掃ボランティア

4月4日(木)、恒例となった興伸工業と合同で北斗市戸切地陣屋跡周辺の清掃ボランティアを行いました。

今年度も函館工業高校や湯の川温泉街花火大会後の会場周辺、作業現場の地域貢献活動の支援など積極的に取り組んでまいります。



ご紹介 土木部 永井正彦さん



永井さんは昭和45年函館市生まれ。関連会社の興伸工業に20年勤務され、4月1日付で戸沼岩崎建設に入社しました。

永井さんは1級建設機械施工管理技士の他、建設工事に係る各種資格を所持しています。趣味は釣り。特に磯釣りの太公望です。「初心を忘れずに頑張ります」と意気軒昂です。